

評価委員会総合評価

研究課題名：地殻活動・地震動・津波の監視・予測に関する研究

評価委員

委員長：小泉 尚嗣

委員：岩崎 俊樹、関口 渉次、西村 太志、馬場 俊孝、保坂 直紀

評価年月日：令和5年12月22日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

津波災害も含めた地震災害軽減のための重要な研究計画である。最新の研究成果や手法・観測データを組み込んだ内容となっており大いに期待できる。副課題2で南海トラフでの巨大地震発生後、後発の残りの地震の規模や範囲を推定する方法の開発に取り組むことになっており、実現すれば、防災上大変有意義なものになると思われる。さらに、以下の点に留意して研究を進めてほしい。

- ・計画にメリハリがあるとよいと感じた。また、次期計画として、社会貢献を、もう少し具体的に示すと良いのではないか。
- ・計画には含まれていないが、後発地震の発生時期予測にまで広がれば素晴らしい。研究が順調に進み余裕があれば挑戦してみてもどうか。
- ・研究を具体的に進めるにあたっては、地殻活動とは何か、また、それを評価する指標は何であるかを明確にする、あるいは、評価指標を考案する必要がある。
- ・即時地震動予測の研究を進めるにあたり、改善を行う予測指標（震度、強震領域など）を明確にする必要がある。また、過去のデータ等を利用することにより、改良による効果のある程度定量的に示すことができるのではないか。
- ・火山性津波など非地震性津波のいくつかの観測が近年あった。これらについてはV 課題と情報を共有しながら研究を実施するのがよい。
- ・地震と津波は人々の命に直結し、国民の関心も高い。進行中の研究についても、数多く発信していくことが望ましい。どういう科学情報のどのような発信が社会に求められているのか、どうすれば社会に受け入れられるのかを、研究所も独自の取り組みとして検討、実施していくべきである。